



岡本 ひとし

一、多重債務問題において地方自治体の責務について
 二、教育行政について
 三、農業経営基盤強化促進基本方針について

多重債務問題において地方自治体の責務について

問 多重債務者への相談窓口の整備について伺う。

答 能勢町人権文化センターにおいて総合生活相談事業の窓口でうけつけている。

問 本町には多重債務者は存在するののか。

答 おられると思う。

問 行政責任として多重債務者への相談窓口を設置すべきと思われるが。

答 多重債務に関する相談は現在のところありません。相談があればしかるべき相談機関へ紹介します。

問 多重債務者には、家庭問題や就労等の目に見えない諸問題があり、多重債務者だからといって切り捨てることは許される事ではないと思うが。

答 多重債務は自己責任でございまして、行政がどうのこうのする話ではなく、基本的には自己責任で責任を持って自身が解決するものである。

教育行政について

問 インクルーシブ教育の推進について教育長の認識を伺う。

答 障がいの種類や程度で教育方法を変えるのではなく、一人ひとりの障がい把握し、保護者との連携をとり、よりよい教育環境の整備に努めます。

問 インクルーシブ教育の推進には、人・もの・金が必要であり、教職員の意識改革も必要だと思ふが。

答 本町の教員レベルはかなり高いと自負しています。引き続き支援加配等の取り組みに努めます。
問 希望する全ての児童生徒が地域の学校での受け入れと、ともに育てることが重要だと思われるが。

答 今後も地域で仲間とともに過ごす教育を推進します。

農業経営基盤強化促進基本方針について

問 本町の農業政策の位置づけを明らかにされた

答 意欲的な農業者に対して、構想的な目的を実現するため必要な農業施策を展開します。

問 耕作放棄地の改善策について伺う。

答 農地の所有から利用へと仕組みを検討します。

問 農地の不正転用について伺う。

答 今後も通知・公告・勧告等を農業委員会が担い、パトロール・是正指導を行っていきます。
問 農業委員会の権限が強化されたという認識がその通りです。



一般質問



八木 修

まちづくりと学校再編

問 少子化、高齢化、人口減少は仕方ないが、交流人口を増やし活性化する。その手法としてグリーン・ツーリズムで対応したいという考えだが、具体的にイメージを示して欲しい。

答 単に農産物の採算性だけではなく、第6次産業を重視し、都市住民を呼び込み、産物に付加価値を生み出すような取り組みが、私のグリーン・ツーリズムだ。そして地域の自然や文化を最大限活かして、交流人口をもつてこの町をなすことが理想的なまちづくりだ。

問 交流人口に依存する体質では能勢町の活性化はないと考えるが。

答 依存するのではなく自ら発信する。

問 観光とグリーン・ツーリズムは下記のように違う。またゲストのニーズに添えるのではなく、

ゲストとホストが対等な関係が持続性を可能にする。

答 全くその通りだ。
問 地域の文化や歴史や自然環境を活かすには、行政主導ではなく地域の人がそのことをやるという機運が必要で、目標とターゲットを明確にして、身の丈にあつた取り組みが必要だと思ふ。そのためにはコーディネートする人やマネージメントをする人を養成するバックアップが行政に求められるが。

答 地域で何をやるにしてもリーダーが必要だ。
問 ここでいう地域とはどのようなエリアか。一般論として生活圏が広くなれば人間関係も薄れ、共通の利害も薄れる。

答 町内において地域とは、いい悪いは別にやはり小学校区だ。

表1 観光とグリーン・ツーリズムの違い

項目	観光	グリーンツーリズム
対象	不特定多数	特定少数
時間軸	一過性、短期滞在	持続性、長期滞在
利便性	重要(一次的)	二次的
目的	収益性の一義的追求	多元的地域活性化
効果	集中効果	分散
関係性	自己完結	ネットワーク(連携)
課題	量的拡大	質的向上
価値	商品価値	文化価値
本質	サービス	人間的交流(「歓交」)
特質	資本投資	資源活用
政策的意義	公共的基盤整備支援	公共的人材育成・資源活用支援

出典:青木辰司『転換するグリーン・ツーリズム』より

問 その小学校区が学校再編で維持できないのではないかと危惧している。時間をかけて地域で話し合う必要があるはずだ。
答 学校再編は将来のことを考え私が決断した。話し合う時間はない。

6次産業：能勢町の場合は、1次産業（農林業）と2次産業（商工業）と3次産業（サービス業）を有機的に結びつけた産業